

# 自閉症アーティストの成長・発達過程及び独創的発想の芸術作品とその系譜：大久保友記乃さんの作品をととして

著者	神田 英治，大久保 昌子
雑誌名	北翔大学北方圏学術情報センター年報
巻	11
ページ	139-148
発行年	2019
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00003126/">http://id.nii.ac.jp/1136/00003126/</a>

研究報告

# 自閉症アーティストの成長・発達過程及び 独創的発想の芸術作品とその系譜 ー大久保友記乃さんの作品をとおしてー

神田 英治<sup>1)</sup> 大久保昌子<sup>2)</sup>

1) 北翔大学北方圏学術情報センター学外研究員 2) アトゥーリエ<sup>3)</sup> (北海道旭川市旭岡1-11-1)

## 抄 録

自閉症児・者の優れた芸術作品については、「サヴァン症候群」に代表されるように、瞬時に見たものを記憶し、写真のように細密に絵を描くことができたり、過去の情景や風景から創造性豊かな絵画を制作したりと、ある特定の分野において優れた能力を発揮することが知られている。

本研究では、我が子（友記乃）の自閉症のアーティストの一人として、独特の感性から独創的な芸術作品を誕生させ、現在も創作活動が続けている制作過程について、我が子の成長・発達過程と芸術作品の系譜とともに検討・考察したものである。

キーワード：発達障害、自閉症スペクトラム障害、アーティスト、色彩の魔術師、芸術作品の系譜

## I. 問題の所在と目的

「アートビリティ」（社福・東京コロニー）による障がい者芸術運動の中で、『才能に障がいはない』の言葉にあるように、「自閉症」という障がいはあっても、独特の色彩や形の捉え方やイメージがあり、独自の芸術世界を創造し、多くの芸術作品を制作してきている。現在、およそ200名の作家による4,000点以上の作品が収蔵された芸術ライブラリーとなっている。

自閉症児・者の優れた芸術作品については、「サヴァン症候群」に代表されるように、瞬時に見たものを記憶し、写真のように細密に絵を描くことができたり、過去の情景や風景から創造性豊かな絵画を制作したりと、ある特定の分野において優れた能力を発揮することが知られている。

自閉症のアーティストとしては、以下のような作家・作品があげられる。インターネット・ギャラリーとしても多くの作品が紹介されている。

○鉄道画の福島尚氏（写真と見間違えてしまいそうな機関車の輪郭やピストンの質感、線路の砂利の細かな描写等）

○動物画の松元伸之介氏（カラフルで細かな動物描写等）

○都市空間画の堀川真也氏（都市の高層ビル群を中心とした細密画）

○切り絵の上田豊治氏（平成の山下清と呼ばれる切り絵作家）

最近では、イギリスのIris Grace（アイリス・グレース）は、2歳で自閉症の診断を受け、療育の一環として絵画療法を始め、5歳にして、まるでモネのような驚くほど美しい色彩の絵画を描くようになり、世界的にも注目されてきている。こうして、自閉症のアーティストが、国際的にも次々誕生してきている。

本研究では、我が子（友記乃）の自閉症のアーティストの一人として、独特の感性から独創的な芸術作品を誕生させ、現在も創作活動が続けている制作過程について、我が子の成長・発達の記録や資料並びに芸術作品の系譜とともに検討・考察したものである。

## Ⅱ. 自閉症スペクトラム障害（ASD）と芸術性について

### 1. 自閉症スペクトラム障害（ASD）とは

アメリカの児童精神科医 Kanner（1944）が「早期幼児自閉症（Early infantile autism）」を報告してから70余年が経過し、この間、自閉症研究の流れも大きく変貌を遂げてきた。

すなわち、1950年代の自閉症成因論の大勢を占めていた心因論的仮説（親子関係説・情緒障害説）が、60年代に Rutter（1968）の「認知・言語障害説」により否定され、その後の実証的研究と精神医学の進歩によって、MBD（微小脳機能障害症候群）や脳幹網様体を中心とした中枢神経系の障害、大脳皮質まで含めた高次中枢レベルの障害などを示唆する報告がなされた。

アメリカ精神医学会は、2013年に精神疾患の分類と診断の手引き（DSM）を改訂し、第5版（DSM-5日本語版：2014）では、精神発達症群/神経発達障害群のカテゴリにおいて、自閉症は「広汎性発達障害（Pervasive Developmental Disorder: PDD）」から名称変更し、自閉症に近い状態を連続的に捉える「自閉症スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder: ASD）」に一本化した（図1）。重い自閉症から知的障害や言語の遅れはないが対人関係を築くことが難しい、いわゆる軽い自閉症と見なされていた「アスペルガー症候群」の分類がなくなり、レット障害は除外された。

DSM-5では、ASD に対して単独の重症度が3段階に設定され、「支援を必要としている<レベル1>」「かなりの支援を必要としている<レベル2>」「最大限の支援を必要としている<レベル3>」となっている。

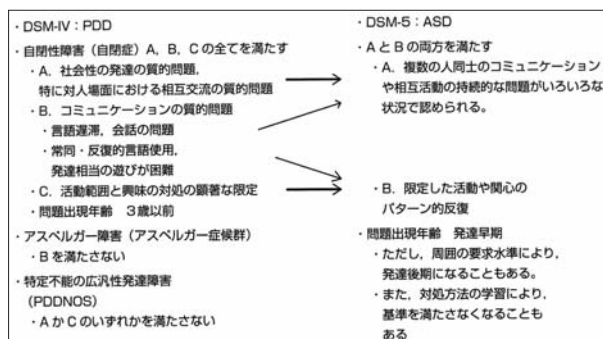


図1. 広汎性発達障害（PDD）から自閉症スペクトラム症（ASD）への診断基準の変更（宮本2015）

上記の診断基準を市川（2012）の報告からA・Bを要約すると、

Aは①社会的なコミュニケーションの障害、②社会的・

情緒的な相互関係性の障害、③発達水準に相応した関係性の障害の全てを満たすことが条件とされている。

Bは①常同的・反復的な言語・運動・物の使用、②日常的・儀式的な行動・変化への過剰な抵抗、③極めて限定・固定された強い興味・関心、④感覚入力への過敏または鈍感な反応または外部への異常な感覚性の4つが挙げられており、その内の2つを満たすことが条件となっている。

### 2. 自閉症と芸術性について

自閉症スペクトラム障害（以下、「自閉症」という）が、前述したコミュニケーション（言語理解と表出の問題）や相互活動の持続的な問題（対人関係と社会性の問題）、限定した活動や関心のパターンの反復（固執的傾向等）が障害特性としてあげられている。しかし、それらの障害や発達に比べて、優れた芸術作品を創作することについては、今村ら（1969）、浜谷ら（1990）、寺山（1995・1998・2002）、杉山（2002）、M. Fitzgerald（2008）、渥美（2012）など多くの研究者から報告されている。すなわち、単純に知的能力の優劣や一般的な発達尺度などから十分に説明できないことである。

寺山・東條（1998）は、自閉症・者の描画表現について研究し、言語表現の能力と比べて絵画表現の能力が優れているとして、その描画表現の上達の背景には、描画活動しやすい環境づくりが大切であるとしている。更に描画指導の充実として、以下の点をあげている。

- ①きっかけを作ること・楽しさを実感させること
- ②鑑賞する機会（描画力を高めるためには良い絵画に出会うことが大切）
- ③技法の獲得（描くためには技法の獲得も必要）
- ④画材などの工夫（本人が描きやすい画材を見つけることも大切）
- ⑤余暇活動の一つとして（時間の有意義な使い方の工夫）

これら上達の背景には、個人にあわせた導入や指導、日常の経験などを大切にすることが重要であるとしている。寺山（2002）の発達障害と臨床描画の研究によれば、発達障害児の描画の特徴について、5つの特徴を示している。すなわち、

- ①限られた対象への関心の強さ
- ②視覚記憶の特徴を反映した写実的表現
- ③細部の特徴を際立たせる
- ④いくつもの記憶がコラージュされている
- ⑤感情を絵で表現する場合がある

これらの特徴は、自閉症の障害特性から起因するものと考えられる。更に杉山（2002）によれば、発達障害の自閉症児・者の一群の中（サヴァンの症例 P.139参照）

には、描画表現能力について、かなりの視覚的情報を記憶でき、再現できる能力をもっている症例などを報告しており、健常者と比して、自閉症児・者の視覚認知、視覚的記憶、思考などの特徴は、言語表現能力よりも描画表現の能力の方が優れており、それらの特徴を反映した素晴らしい芸術作品を創出しているものと推察される。

娘（友記乃）は、当時の医師からは「自閉症」と診断され、療育手帳「A」判定となり、重篤な障がいであることが判明した。娘がこの診断を受けた時、最初は「何で？性格的な問題だと思っていたから、自分の幼少時と似ているので、きちんと育てれば治るものと思っていた」という大変無知な親であったと思われる。しかし、「それがあったから今があるのだ」と思えるようになり、最初から障がいがあるからと接してしまったら、甘やかして何もできない子になっていたと考えられる。「自閉症」とわかってからは、『この子の生きる道』すなわち、何か一つ輝けるものを探すようになった。第2子の出産も重なる苦しい生活中で、療育の世界へ積極的に親子で参加するようになった。

今の世の中、健常で生まれても、「いじめ」「不登校」「引きこもり」「自殺」「不審者の心配」など、生き抜くこと自体がとても困難な時代になってしまったので、改めて考えさせられるのは、「人並みに生きるという事は、どういうことであるか」と自問自答する毎日であった。そのような中、「RUTO3」と言えば、数学の $\sqrt{3}$ を思い浮かべることができる。教科書には、「1.732……」と数値がある。その語呂合わせから、やがて、それが子どもたちが「人並みに暮らせる社会を目指して」が我が家の子育ての原点となった。RUTO $\sqrt{3}$ の願いとして、やがてこれが健常者と障がい者との様々な交流の場として、建築家のお父さんにより「アトゥーリエ $\sqrt{3}$ 」（旭川市旭岡：工芸・庭園・茶房／北の嵐山）のギャラリー・カフェのオープンへと繋がっていくことになる。

### Ⅲ. 成長・発達過程と芸術作品の系譜

#### 1. 乳幼児期

- 1989 北海道旭川市に生まれる。
- 1991 1歳半でやっと始歩、いきなり走る。多動傾向があり、体操教室に入会して運動指導を受ける。
- 1992 3歳で「仲良し子ども館」に行き、集団適応ができずに、大変なショックを受ける。
- ヤマハ3歳児ランドでは、発語は無いもののハミングで「チューリップ」「ちょうちょ」「めだかの学校」などを正確に歌う（暗譜が得意）。多動のために、着席行動が困難であった。

→これらの行動特徴から発達障害のADHD（注意欠陥・多動性障害）の傾向がうかがえる。

- 1993 児童相談所において「自閉症」という医師の診断から、療育手帳「A」判定を受ける。その後、道立M学園の母子訓練に参加し、母子共に心身のケアに安らぎを覚える。初めて療育の世界に足を踏み入れる。

旭川市特殊教育センターに相談し、S先生から早期教育の指導を受ける。

- 1995 就学を控えて、道立特殊教育センターの教育相談を受け、K先生の指導を受ける（以後、継続相談）。東京外大のT先生（発達心理学）のラボパーティーに参加。クレヨンで何色も重ね塗りを行い、色彩感覚の豊かさを知る。

#### 2. 児童期

- 1996 旭川市立A小学校入学（当時の市教委の配慮で通常の学級在籍し、情緒障害学級においても通級指導を受ける）。

→1993年度（平成5年）から実施された学校教育法施行規則改正・文部省告示（その後2006年・平成18年改正）による「通級による指導」の新しい教育形態と制度であり、再度の改正で「情緒障害者」の中に含まれていた「自閉症者」を独立して取り扱うこととし、指導時数の弾力化と障害の状態や特性等に応じたきめ細かな指導の充実が図られた。当時としては法改正前であり、旭川市教委の取り組みは、先駆的な教育実践を行っていた。

- 1997 男児のお絵かきソフトのピコをいきなり渡され、そこに色々な色を入れて、すばらしい作品を創作する。我が子にこの特性を生かせないかと思った。
- 自閉症児の特異な能力特性と可能性を求めて、両親の奔走が始まる。

- 1997 K絵画造形教室に通い、K先生から水彩、クレパス、コラージュ、和紙折染、レリーフ等の体験学習を積む。

→描画指導の充実には、寺山・東條（1998）によれば、「制作可能な環境づくりときっかけを作ること・楽しさを実感させること、鑑賞する機会、技法の獲得、本人の描きやすい画材などの工夫が必要である」としており、それらをまさに実践してきたことになる。

- 2000 小学校5年の宿泊研修で七宝焼ブローチを自ら制作し、初めて七宝焼に出会う。

- 2002 全校の卒業記念として七宝焼500個制作し、全校児童へ贈呈。旭川市立A中学校入学後に七宝焼教室に通う。



### 3. 青年期

- 2004 北海道旭川市の旭川文化会館で初の個展を開催。  
市民から好評を博す（入場者678名）。
- 2005 旭川市立A中学校卒業（反抗期で苦悩）
- 2006 モントリオール国際芸術祭で世界芸術賞を受賞  
（図2）。
- 2007 メルボルン日本芸術祭で日豪振興芸術賞を受賞。  
作品【モネに見える？】（スクラッチ）  
イタリアのヴェローナ国際芸術交流賞を受賞（図  
3）。



図2. 受賞作品【モネに見える？】<スクラッチ>

モネに見える？ スクラッチ

中学1年の夏休み。作業訓練で生まれた作品です。これが出来た時、まさか世界で評価されるとは思っても見ませんでした。夏休みの作品が出来て良かったなぐらいにしか思いませんでした。フィンガーペイントの絵の具を粘土ペラで引っ掻いた、これもスクラッチと言う技法です。

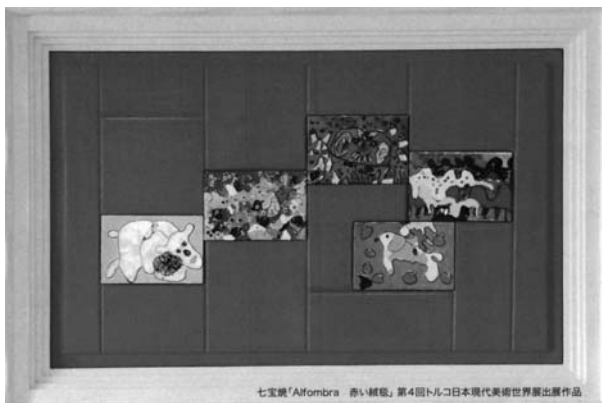


図4. 受賞作品【赤い絨毯（アルフォンブラ）】<七宝焼>

アルフォンブラ 七宝焼（銅線）

2008年4月10日から17日までトルコのイスタンブールでトルコ日本現代芸術世界展に出品した作品です。今まではピースの組み合わせでしたが、今回は銅線の作品で、トルコに出す為に、自分で全部銅線を折りながら、作りました。本人には「トルコに出す」と言うと、自分なりのイメージで作ってくれました。

アルフォンブラはスペイン語で絨毯という意味ですが、オリエンタル文明に近い雰囲気になったかなと思います。お陰様でトルコでは作品の評価が良かったそうで、特別賞としてクリスタルを頂きました。

日仏合同芸術祭2007「創造者たちのエデン」にて『ポエティック・インティメート（詩的で親密な）特別賞受賞。【モネに見える？】（スクラッチ）

旭川市文化奨励賞を受賞（最年少18歳）。

旭川市内にギャラリー√3オープンし、大久保友記乃常設展。

2008 トルコ・イスタンブール・ヘシクタシュ現代美術館の特別賞を受賞（図4）。

旭川丸井今井デパート開店110周年記念キャラクターに採用（図5）。

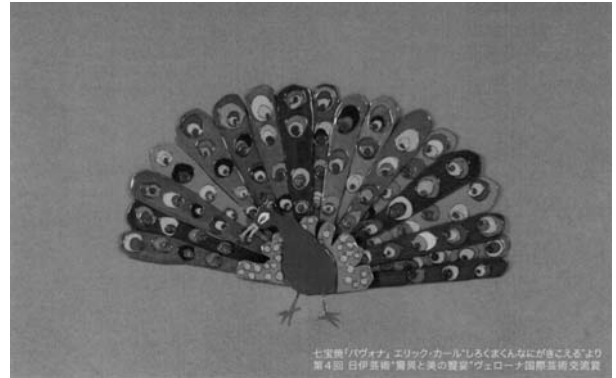


図3. 受賞作品【孔雀（パヴォナ）】<七宝焼>

パヴォナ（孔雀） 七宝焼

エリックカールの絵本はこれで卒業です。2007年7月第4回伊芸術驚異と美の饗宴の出展作に、七宝で初めてエントリーしました。この作品は出展させるために作らせ娘にプレッシャーをかけてしまいました。締め切り日から逆算して作品のピースを割り付け、今日はこれだけ終わらないと帰れないよとノルマをかけていました。調子の良い時と悪い時の差が大きいので調子の悪い時は泣きながらやって、先生に帰りたいと言われておりましたが、帰らないの——と言って頑張って仕上げました。

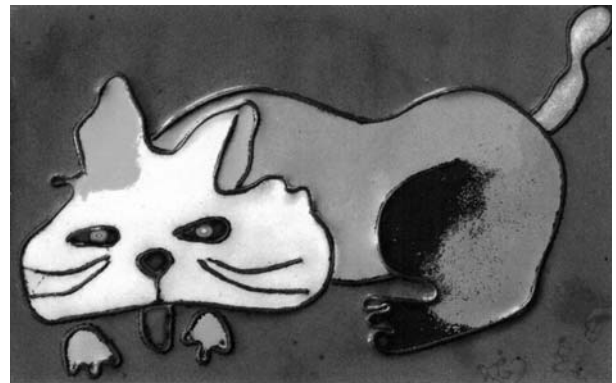


図5. 受賞作品【オヨヨねこ】<七宝焼>

2007年8月8日の作品

丸井今井旭川展110周年のキャラクターとして使用されるのです。物を見て描くことがあまり好きでない友記乃が初めて描いた作品。

イラストブックを見ながら、それでも同じにならないのが良かったのか、独自の雰囲気になりました。これを銅線で折り、3回工程で仕上げました。先生に物凄く褒められたのはオヨヨの顔で、耳の黄色と顔の白がはっきりと色分けされている所です。体の部分もそうですが、手早くないと普通はこうならないのです。

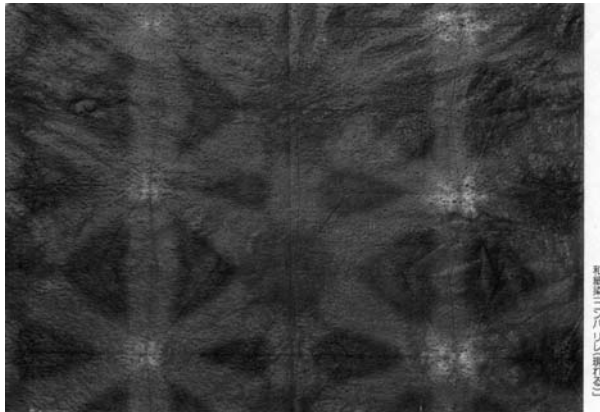


図6. 受賞作品【コンパリレ (現れる)】<和紙折染>

コンパリレ 和紙染め

これは無謀だったかもしれない。すかしの入った和紙はとても薄いのに、そのままの大きさでさせてみました。

実はこの時イタリアに出品する話が来ていたので、七宝か和紙染めか迷っていたのです。七宝作品が間に合わなければ大物の和紙染めのどちらかにしようと思って“コンパリレ (現れる)”と言うタイトルにしました。

染め上がった時は真っ黒に見えましたが、時間が経つと段々模様が浮き上がってきたのです。

これは二等辺三角形折の模様です。

#### 4. 成人期

2010 東京六本木・第81回第一美術協会展で和紙折染「コンパリレ」(現れる) 入選 (以後毎年度の連続入賞を果たす (図6))。

第37回北海道美術工芸協会展 (美工展) で「花のトンネル」入選。

2011 七宝焼からステンドグラスに転向。

第38回北海道美術工芸協会展 (美工展) で「SIMA SIMA の世界」入選。

2012 第83回第一美術協会展 (東京・国立新美術館)

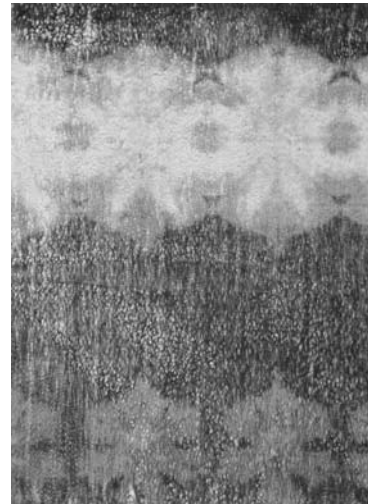


図7. 受賞作品【JAPANESQUE (日本的)】<和紙折染>

JAPANESQUE (日本的な) 和紙染 (2011年)

これはレース紙と言って普通の和紙の半分くらいの薄さしかありません。この和紙で染めると助手が大変なのです。濡れたまま渡されるから、薄くて破れやすく開くところが見えづらいので、破いてしまうことがあります。この染あたりから変則的な折り方を始めました。

それまでは規則的に折るので、模様がワンパターン化されて折り方で予測が付きましたが、変則折になってからは、何が出てくるかわかりません。これは第83回第一美術展の入選作です。

「JAPANESQUE」入選 (図7)。

2013 福井県福井市、坂井市、あわら市の3会場で個展を開催 (約4100名来場) (図8, 9)。

→紙漉き人間国宝の岩野市兵衛氏から越前和紙の奉書紙を提供されて創作。

北海道札幌市「紀伊國屋書店」で、個展を開催 (以後連続開催)。

第84回第一美術協会展「心の躍動」入選 (図10)



図8. 人間国宝の岩野市兵衛氏から越前和紙の提供による作品【輪紋「INISHIE」】(和紙染色)と福井県福井市・坂井市・あわら市の開催ポスター



図9. 友記乃さんの作品制作とインタビューポスター



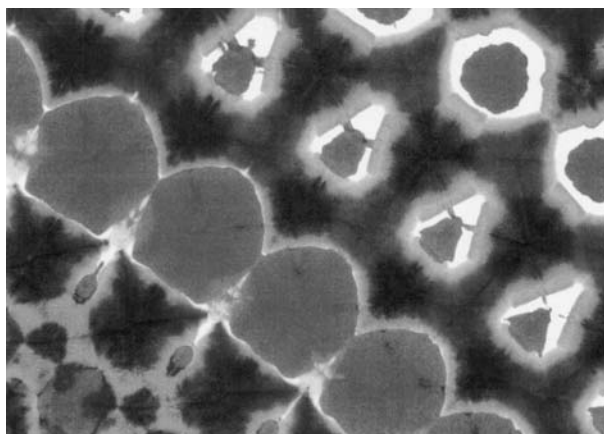


図10. 受賞作品【心の躍動】＜和紙折染＞

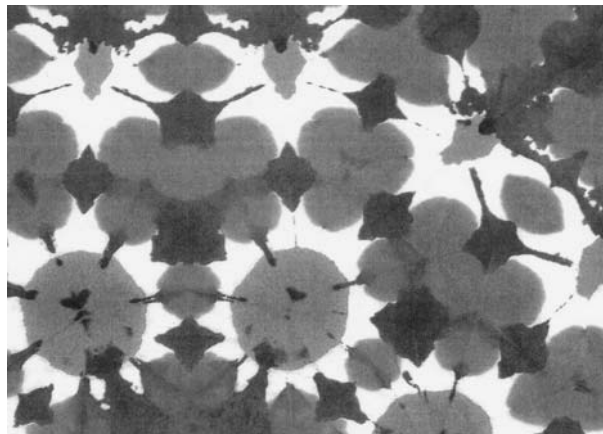


図11. 受賞作品【万華鏡】＜和紙折染＞

2014 第85回第一美術協会展「万華鏡」入選（図11）。  
文芸社より、「不思議少女 友記乃の世界」を出版（図12）。

2015 第86回第一美術協会展「美の拡散」入選。  
日本自閉症スペクトラム学会第14回研究大会（札幌学院大）においてポスター発表，並びに学会協賛作品展を開催。

学会大会記念として，北海道画廊（札幌市）にお

いて，「大久保友記乃展」を開催（図13）。

2016 第87回第一美術協会展「FLORAI花の精」入選。  
第一美術協会（東京）推挙により準会員となる。

アメリカ合衆国大統領オバマ氏来日記念として広島市役所，広島原爆記念公園に千羽鶴5千羽を寄贈。長崎市原爆資料館にも同5千羽寄贈（図14）。



図12. 「不思議少女 友記乃の世界」出版報告（北翔大学）  
◇西村弘行氏＜前学長＞と共に筆者（大久保）



図14. 長崎市原爆資料館の「平和の母子像」寄贈の千羽鶴



図13. 日本自閉症スペクトラム学会札幌大会開催記念展覧会（北海道画廊）◇中央：寺山千代子先生＜学会事務局長＞

2017 第88回第一美術協会展に準会員として「燕子花」出展。

NHK ハートフルギャラリー第14回木滑美恵と生徒たち展に「風を感じて（油彩20号）」出展。

北海道旭川市に「アトゥーリエ√3」プレオープン。「不思議少女友記乃の世界」を常設。建築家のお父さんによる素晴らしい展示館が完成（築30年の中古住宅を購入し，リノベーション）。

→ご両親のルート3のコンセプトである健常者と障がい者の相互理解による共生社会＝ノーマライゼーションの実現へ大きく躍進することになった。



図15. アトゥーリエ√3 (旭川市旭岡) のギャラリー内部：1 階

「人並みに暮らせる社会を目指して」である。

2018 北海道芦別市「星の降る里百年記念館」で和紙折染展を開催。

北海道沼田町「ギャラリー・アートスタジオ Shikaro (シカロ)」で個展を開催。

福井県越前市の越前和紙の里「紙の文化博物館」で和紙折染展「友記乃のふしぎな世界2018」を開催(福井県では3回目, 人間国宝の紙漉き職人の岩野市兵衛氏より和紙を提供)。

第40回北海道美術工芸協会展(美工展)で七宝焼からのジャンル替えて8年振りに初の二点「Earth Shainne」「フルーティね」(和紙折染)入選。

明治150年芸術文化維新展(東京)「新宿文化センター」に「紫日和」出展。

第89回第一美術協会展(東京)に「ORIGIN」出展。

奈良県奈良市春日大社／まほろばの明かり／「万華鏡」(行燈仕立て)を奉納。

2019 明治神宮記念館(東京)発刊記念レセプションパーティー「JAPANESQUE」クオリアート

第41回北海道美術工芸協会展で「オールド」「春の宴 夜桜」入選。

北海道深川市「深川文化交流ホールみ・らい」で友記乃の小さなアート展を開催。

→演劇舞台装飾では, デモンストレーションにおいて, 大量の折り鶴を上から降らせて使用し, 大変好評であった。

北海道札幌市「さいとうぎゃらりー」第16回トドマッテハイケナイ展に出展。

神奈川県横浜市「神奈川県民ホールギャラリー」第27回国際平和美術展に「TO THE WORLD WITHOUT THE WAR」(戦争のない世界へ)を出展。

イギリスのマルギャラリーに「JAPANESQUE」出展。

剣淵町絵本の館で「大久保友記乃作品展」(12月予定)。



図16. アトゥーリエ√3 (旭川市旭岡) のギャラリー内部：2 階

#### IV. 難関の人物画(油彩)制作と親子の美術鑑賞

##### 1. 人物画の指導と作品

自閉症児・者の多くは, 描画表現の特徴として限られた対象物に限定される傾向があり, 電車, 自動車, 鉄道, 道路, 建物などである。このことは, 自閉症の障害特性である固執性に起因するものと考えられる。

友記乃さんも児童期から青年期の作品(2004~2007の七宝焼)には, 大好きな絵本(エリック・カール)のいろいろなモチーフから作品を制作(「ワイルドキャット」「ペリカン」「シロクマ」「孔雀(パウオナ)」など)している(大久保2014)。その後, 友記乃さんは, 七宝焼から油彩画, ステンドグラス, 和紙染へといろいろなジャンルを重ねて変遷してきている。23歳になって初めて人物画に挑戦している。

人物画は, 原始時代から現代まで人間を絵画や彫刻などに表現してきた歴史があり, 呪術的な宗教の信仰の対象(宗教画)としたり, 権力の象徴(肖像画), 愛や理想の対象(記録画や生活画, 自画像)としたり, いろいろな時代を通して人間を描き表現してきた。一般的に, 人物画は風景画や静物画などの目の前にあるものを写すだけでなく, 人としての愛や悲しみ, 怒りや憎しみ, 不安や恐怖などの感情が内包されており, それを描くためには, モチーフの選択, 構図, 色彩など, 難しい描画技法が求められ, 表現上の思考と決定がうまく合致しないと作品にはならない。

自閉症で最も顕著な対人関係の問題が大きな障壁であったが, 図17のように, 良き理解者であった絵画教室のK先生からは, モデルにどのようなポーズをとってもらうか, 指導者のイメージと描く側の好みや志向性を巧みに調整しながら, 人物画の作品製作に励んだことが推察





図17. 人物画デッサン指導光景（左端：友記乃さん）



図18. 油彩「人物画」作品

される。

完成した人物画（図18）からは、プロモーション（頭、胴体、手足の長さ等の割合）の位置と傾き、人体の側面や部分の描き込み、描き足りない部分の補色、アクセントを入れて強め、最終的には全体の調子を整えて完成させていることが覗える。描画発達と表現力には個人差はあるが、指導のテクニックと文化的・芸術的環境による影響が大きかったと思われる。また、人物画の発達変化については、大城・神園（2007）によれば、「社会性の発達と描画は、ほぼ同じ時期に質的な転換が出現することから、（対象児の描画）とりわけ人物画の発達変化は、社会性の発達をよく反映することが明らかになった」と報告しており、成人となって自己認知から他者認知へと大きく内面的世界が変化したことも考えられる。

## 2. 母子の美術鑑賞の重要性

2014年秋に大学のゼミ研修で、道立旭川美術館での「日本画の巨匠たち展」を鑑賞に行ったところ、奇遇に



図19. 母子で美術鑑賞（道立旭川美術館。偶然神田先生と遭遇）

も大久保さん親子に出会うことができた。友記乃さんも横山大観を中心とした日本画作品の幅広い魅力の世界を堪能したことになる。

寺山・東條（1998）の報告では、前述（P.96参照）した描画指導の充実について、鑑賞する機会をもつことは「実践描画力を高めるための良い作品に出会ったり、作品から創作意欲を刺激され、描くための技法などのヒントを得ることができる」としている。著者（大久保）も多忙な中、母親として多くの展覧会に出掛けて体験・経験を積んできている。

## V. 作品批評（評価）について

面谷（2018）は「注目の現代アーティスト」の中で、大久保友記乃の和紙折染作品『万華鏡』について【ファンタジックな世界を造り出す爽やかな色彩】と題して、次のような評論を述べている。

すなわち、「作者はこれまでスクラッチ、水彩、油彩、七宝焼、ステンドグラスなど多彩な表現を試みている。いずれも独特の空間感覚、豊かな色彩感覚が際立つが、和紙折染ではその魅力がより濃厚に伝わるようだ。即興性、偶然性をともなう自在な手法が、巧まずして作者の美的感性をいっそう深く掘り起こしていると見える。作者はさながら色彩の小宇宙に遊ぶ風情で、観る者を作者の世界に誘いこむ。さらなる作品世界の広がりが見込まれ、例えば幾つかの小宇宙を組み合わせるような大作なども期待したいところだ。」

面谷氏の評論のとおり、自閉症スペクトラム障がいハンディキャップを持ちながら、母親のサポートの下にアートの世界で才能を開花させ、幅広いジャンルの作品を生み出した独特の感性と独創的な芸術作品＝「友記乃の世界」として賞賛している。

一方、画材の材料提供者である人間国宝の岩野氏（福井新聞2013・2015）からは、「2013年のバレンタインデー

を染めた時に、自分の頭の中でできているということを確信した。最初に紺色一色で染めているので、それだけ？と聞くと、『うん、ハート』と言って赤を入れて、和紙を開くとハート型になっていた。出来上がりが頭に描けているのだろうか。天才的だと思った」その2年後には、「彼女にしかできない作品だ。さらに少しずつ前進していると感じた」と述べており、友記乃さんの才能を高く評価し、有能な芸術作家の創作意欲への期待を滲ませていることが窺える。

歌手の加藤登紀子さんは、芦別市での展覧会を訪れて、新聞インタビュー（2007年6月22日北海道新聞）に応じて、「素晴らしい作品。色づかいがすごい。かわいいですね」と率直な感想を述べられている。

その他多くの作品展において、多くの方々が入場されて鑑賞し、感動・感想がマスコミ報道されたり、新聞や雑誌にも数多く掲載されており、本稿では割愛したい。

島田（2012）は、アーネスト・フェノロサ（1882）の「美術真説」から絵画の鑑識と批評の基礎について、次のようにまとめている。すなわち、

「美術の本質が『妙想（アイデア）』であることを確認した上で、絵画には芸術一般の本質的属性である形状と旨趣の上にさらに湊合と佳麗という二つの特殊な属性がある。形状は絵画の場合、図線、濃淡、色彩の三つであるから、次の八格が必要となる。すなわち、

- 1 図線の湊合 2 濃淡の湊合 3 色彩の湊合
- 4 図線の佳麗 5 濃淡の佳麗 6 色彩の佳麗
- 7 旨趣の湊合 8 旨趣の佳麗 これに次の二つ
- 9 意匠の力 10 技術の力 が加わって、都合十

格が絵画成立の基本条件となり、これが絵画の鑑識と批評の基準となる」としている。友記乃さんの独特の感性と独創性から生み出される作品は、自閉症の特異な優れた能力として評価されよう。私的（神田）には、友記乃さんは、19世紀末から20世紀前半に活躍したフランスの画家のラウル・デュフィ（Raoul Dufy, 1877～1953）のバリを代表する「色彩の魔術師」のように感じられてならない。著名な池田満寿夫氏は、「デュフィ」の書評の中で『やわらかな光をたたえた色彩、陽気な音楽のリズム、デュフィは生きる喜びを描きつづけた。20世紀の芸術運動の洗礼を受けながら切り開かれた独自の画風、自由闊達な軽快さとおしゃれな装飾感覚にあふれたその作品は、見る者を幸福な時間に浸す』と評している。

## VI. 考察と今後の課題

我が子の場合、ライフステージ毎に多くの芸術家の支援・指導を受けながら、基本的な技能から応用・発展そして創作活動へと広がりを見せてくれた。自閉症児・者

は、障がい特性から、表現活動や創作活動が難しいと考えられてきているが、自閉症の認知スタイルから、健常者よりも優れた能力を発揮することが知られている。

Happe F.（1999）は、情報統合について、統合的一貫性の弱さが認知スタイルとして、自閉症の欠落している面だけでなく、優れた点として音楽や絵画（特にグラフィック分野）で卓越した才能を発揮していることを報告し、絵の才能のある人との共通の特徴であろうとも述べている。

渥美（2013）は「サバン（サヴァン）と自閉症」について、『自閉症のあるサバンにみられる美術的才能は、近年 Art Brut（生の芸術：outsider art）が注目されており、20世紀前半までは芸術的価値を与えられなかったと思われるものが、現在ではより広く自閉症のある人の才能が見出せると思われます。…＜略＞…美術だけではなく、音楽でもそうですが、サバンの才能には天性のものがあると同時に、才能として発揮される芸術に接する機会と実行する機会があることが重要です』と述べている。

すなわち、友記乃さんの美術的才能の開花は、幼児期からの絵本の読み聞かせ（本人の最も嗜好性の高いもの）や絵を鑑賞したり、描いたりする機会を多く与えた経験・体験の蓄積であり、また医療・教育・福祉による適切な指導や助言等の支援、就学時からの児童・生徒・教師そして保護者などの周囲の人々の暖かい支援の輪によって芸術家として大成したものと思われる。健常者は、「Art Brut」を含めた新しい観点で、障がい児・者の生の感性をこれからの美術作品の鑑賞力や評価尺度として高めていく必要があろう。

おわりに、友記乃さんの独特の感性輝く作品集が出版された時、ご両親の言葉が掲載された。

「本書のタイトルにあります『不思議少女』とは、娘・友記乃のことです。なぜ不思議なのかと言いますと、黙っていると一見普通の人に見えるのですが、喋りだすとまるで宇宙人じゃないかと思われるようなことを言い、行動も不思議に見えるからです。友記乃は『自閉症』です。…＜略＞その独自のルールに則った『自分の世界』の中で、創作活動を続けています。＜略＞これまで多くの方々との出会いを通じ、たくさんのご縁を頂戴しながら育ってきました。このたび活動15年の節目を迎えて、今までの足跡を振り返る意味で出版することを決意しました。今後どんな成長をしていくのか、また、次の段階へ向かう励みになればという願いを込めて、皆様に見守っていただけたら幸いに存じます。」との素晴らしいメッセージである。

今後も楽しい創作活動を展開し、展覧会を開催しながら多くの人々に「ルート3」の願いとコンセプト（互い

に支え合いながら、共に生きる社会＝ノーマライゼーションの実現を目指して）の理解・普及に努めていきたい。

## Ⅶ. 引用・参考文献

- 1) 渥美義賢 (2013) : サバシー自閉症の不思議で大きな可能性－特総研メールマガジン, 国立特別支援教育総合研究所, P.1-4
- 2) Happe F. (1999) : Autism: cognitive deficit or cognitive style?. Trends in Cognitive Sciences, Vol.3(6), PP.216-222
- 3) 市川宏伸 (2012) : 医療における発達障害の支援. LD 研究 21(2), 日本LD学会, PP.143-151
- 4) 岩野市兵衛 (2013) 独特の色彩美県内で披露－人間国宝・岩野さん提供 和紙染めなど－. 福井新聞
- 5) 神田英治 (2018) : 自閉症スペクトラム障害 (ASD) のある人の体育科学的アプローチと体育指導－障害児 (者) 体育・スポーツの振興・充実を目指して－. 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要第 9 号, PP. 165-188
- 6) 神田英治・大久保昌子 (2015) : 不思議少女 友記乃の世界－自閉症の独創的な芸術作品とその系譜. 日本自閉症スペクトラム学会第14回研究大会抄録集, P.78
- 7) 宮本信也 (2015) : DSM-5における発達障害. LD 研究 24(1), 日本LD学会, PP.52-60.
- 8) マイケル・フィッツジェラルド (2008) : アスペルガー症候群の天才たち－自閉性と創造性－. 星和書店, P.1-574
- 9) 文部科学省 (2007) : 改訂版 通級による指導の手引－解説とQ&A－. 第一法規, P.1-147
- 10) 中田英雄・神田英治他 (2007) : 文部科学省拠点システム構築事業・国際教育協力イニシアティブ実施報告書「障害のある子どもたちの芸術作品集」, 筑波大学教育開発国際協力研究センター, PP.7-25, 69-82
- 11) 日本自閉症スペクトラム学会編 (2005) : 自閉症スペクトラム児・者の理解と支援－医療・教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識－. 教育出版, P.1-277
- 12) 日本自閉症スペクトラム学会編 (2012) : 自閉症スペクトラム辞典. 教育出版, P.1-233
- 13) 日本LD学会編 (2004) : LD・ADHD 等関連用語集. 日本文化科学社, P.1-221
- 14) 面谷哲郎 (2018) : 「注目の現代アーティスト, 大久保友記乃」評論【ファンタジックな世界を造り出す爽やかな色彩】. つくりびと, Vol.67, 国民みらい出版, P.4
- 15) 大久保友記乃・昌子 (2007) : タイムリーインタビュー 障がいを持つ人の励みになりたい, 月刊北海道経済, (株) 北海道経済社, PP.194-198
- 16) 大久保友記乃 (2014) : 不思議少女 友記乃の世界. 文芸社, P.1-31
- 17) 大城理恵・神園幸郎 (2007) : 高機能自閉症児における社会性の発達と描画の変化. 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要No.9, PP.81-92
- 18) 扇田博元 (1960) : 絵による児童診断法, 黎明書房, P.1-307
- 19) 島田康寛 (2012) : 日本画140年の歩み－水野コレクションから見る－, 水野美術館名品集, PP.6-13
- 20) 杉山登志郎 (2002) : 発達障害の臨床における描画の意味, 発達障害と臨床描画, 臨床描画研究17. 日本描画テスト・描画療法学会, 北大路書房, P.22-36
- 21) 高橋三郎・大野 裕 監訳 (2003) : DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引. 医学書院, P.1-377
- 22) 寺山千代子・大塚郁朗 (1995) : 発達障害児の描画能力の発達－ある自閉症児の継続的観察－. 日本教育心理学会総会発表論文集37. 日本教育心理学会, P.304
- 23) 寺山千代子・東條吉邦 (1998) : 自閉症児・者の描画表現の特徴. 国立特殊教育総合研究所研究紀要 Vol.25, PP.75-82
- 24) 寺山千代子 (2002) : 自閉症児・者の描画活動とその表現, 発達障害と臨床描画, 臨床描画研究17. 日本描画テスト・描画療法学会, 北大路書房, PP.5-21

## 謝 辞

本研究をまとめるにあたり, 作品の制作・指導でお世話になりました美術教室関係の先生方, 早期療育や教育相談・福祉施設においてご指導・ご支援いただいた医療・福祉・教育関係者の皆様, また学会発表でお世話になった寺山千代子先生 (星槎大学/日本自閉症スペクトラム学会事務局長), 個展の開催にご尽力を賜った鶴田昌嘉氏 (北海道画廊), ご激励を賜った西村弘行氏 (北翔大学前学長) 並びに山谷敬三郎学長に心から感謝申し上げます。